

令和4年度 学校評価アンケートについてのコメント

凡例 ○…読み取れる事実など、■…事実の解釈

【生徒】

昨年度と変更なし

- 肯定的な回答（A+B）が80%を超えたのは16項目あり、全ての項目で90%を超えている。「7 タブレット端末の活用」が最も高く、98.7%であった。
- 肯定的な回答（A+B）が80%を超えなかったのは、「4 部活動（65.8%）」、「8 海外交流（53.5%）」、「14 キャリア教育（83.4%）」「16 相談体制（81.5%）」「18 ホームページや学級通信（60.0%）」であった。これらのうち、否定的な回答（C+D）が20%以上であったのは、「8 海外交流」（32.3%）、「18 ホームページや学級通信（40.0%）」の2項目であり、項目数は昨年より2項目減少している。
- Aの回答が60%以上であったのは10項目あり（令和3年度は10項目）、特に「3 ルールを守る（75.3）」、「7 ICT活用（76.1）」を越えた。
- Aの回答が40%以下であったのは、「8 海外交流（17.4）」、「18 ホームページや学級通信（23.9）」の2項目であった。
- 「6 先生のICT活用」「7 生徒のICT活用」では、どちらも、Aの回答が70%を、肯定的な回答（A+B）が96%を超えている。
- 無回答で10%を超えたのは、「4 部活動（20.7%）」、「8 海外交流（14.1%）」の二つである。
- Cの回答が10%を超えている傾向が「8 海外交流」「14 キャリア教育」「16 相談体制」「16 相談体制」「18 ホームページや学級通信」で見られる。

■全体的には、良好な評価を得ている。

■ICT活用についての評価は非常に高い傾向にある。

■「部活動」「海外交流」「ホームページや学級通信」に関する評価が低い傾向にある。

■情報発信や心に寄り添うことについて、この傾向が続いている。

この結果を踏まえた工夫改善する必要がある。

【保護者】

昨年度と変更なし

- 肯定的な回答（A+B）が 80%以上を超えたのは 17 項目あり、そのうち 12 項目で 90%を超えている。「18 施設の充実」が最も高く、98.1%であった。
- 肯定的な回答(A+B)が 80%を超えなかったのは 2 項目あり、「4 ICT 活用(74.2%)」、「19 学校行事 (74.9%)」「20 学校目標 (33.3%)」であった。否定的な意見 (C+D) が 20%以上であったのは、「19 学校行事 (21.3%)」「20 学校目標 (61.1%)」であった。
- Aの回答が 60%以上であったのは、本年度はなかった。
- Aの回答が 40%以下であったのは、「10 キャリア教育 (34.5%)」、「14 相談体制 (39.7%)」、「20 学校目標 (5.6%)」の 4 項目であった。
- 無回答で 10%を超えたのは、「4 ICT 活用 (16.0%)」の 1 項目である。
- C及びDの回答（無解答を除く。）が 20%以上であったのは、「19 特色ある教育活動 21.3%」「20 学校目標 (61.1%)」の 2 項目であった。
- 重点として取り組んでほしい内容は、「④行事や体験的活動」が最も多く、「⑫国際交流・国際理解教育」「①各教科指導の工夫・改善」がほぼ同数、次いで「⑩大学との連携」「⑪様々な場面での ICT 活用」が続いている。

- 例年同様に無記名で実施したが、本年度は回答率が 10%低下した。（回収率約 64%）。
- 例年、生徒の評価に比べると保護者の評価は総じて低い傾向にある。
- 「特色ある教育活動」や「学校目標」に関しては、さらなる工夫と改善が必要である。
- 重点として取り組んで欲しい内容は、「行事や体験的学習」は最も高く、もっとも希望される重点目標である。次いで「国際交流・国際理解」「各教科指導の工夫・改善」が続き、さらに「大学との連携」「様々な場面での ICT 活用」に対する大きな期待がみられる。

【教職員（自己評価）】

昨年度と変更なし

- 令和元年度と比較すると、「学校として」「職員個人として」ともに全体的にB、Cの割合がともに増加した。
- 肯定的な回答（A+B）の割合が、80%を超えたのは、学校としては9項目、個人としては、7項目であった。
- 肯定的な回答（A+B）の割合が100%であったのは、個人としては、1項目「5 授業の工夫」である。
- 肯定的回答（A+B）が80%以下であったのは、学校としては「4 校務分掌（64.7）」、「8 ルール指導の体制（76.5）」、「12 施設・機器の補修・維持・整備（64.7）」であり、個人としては「3 教育計画遂行等（58.8）」、「6 校内研修（76.5）」、「10 相談活動（70.6）」「11 通信等の情報提供（64.7）」であった。
- Aと回答した割合が40%以下であったのは、学校全体としては8項目、特に低いのが「4 校務分掌（11.8）」と「8 ルール指導の体制（11.8）」であり、続いて「3 教育計画の活用（17.6）」と「12 施設・機器の補修・維持・整備（17.6）」となる。個人としては9項目、特に低いのが「2 附属中学校の使命の遂行（23.5）」「3 教育計画の遂行（23.5）」「11 通信等の情報提供（23.5）」であり、続いて「1 学校目標の実践（29.4）」「4 校務分掌（29.4）」となる。

■全体、個人共に「4」「8」の割合が低いのが、本年度の特徴である。

■情報提供は、校内外に積極的な情報発信は行ってはいるものの、ばらつきが激しいと言える。また、情報提供も含め、教育計画や校務分掌についても、例年、低い割合を示している。学校目標と附属中学校の使命の遂行が低い割合を示していることに対して、大きな改革が必要な点である。

■全体、個人共に学力定着のための工夫は、高い伸びを示している。